

たたら

第 13 号
(2019年7月発行)

島根学習センター内
島根同窓会

発行者 竹下靖彦

<http://oushimaned.main.jp>

E-mail info@oushi

maned.main.jp



第7回通常総会参加者

第7回通常総会を開催しました

創立6年が経過し、7年目の活動を推進するため4月21日(日)、学習センター第2講義室において、会員65人(委任状含む)の出席にて第7回通常総会を開催した。

総会は2018年度事業報告、同決算・監査報告、2019年度事業計画、同予算案、第4期役員改選について協議され、全ての議案が執行部の提案が賛成多数にて可決承認された。

本総会には、田坂郁夫新所長が来賓として初めて出席され、同窓会の活動としてセンター諸事業に積極的に支援を受けていることに感謝と

今後への協力を期待するとの挨拶を受けた。

新年度の事業は、会員の要望に沿うための活動に取り組み、引き続き社会貢献活動を通じて放送大学と同窓会のイメージアップを図るため、民間からの事業へ共催、後援依頼には役員会にて会則に照らして組織名を宣伝する。

新規入学生が減少しているため、センターと協力して学生募集活動に取り組むことで、同窓会の存在と果たしている役割について宣伝する。

役員改選では女性の副会長と理事を選出し男女比47%弱となり、WHOが推奨する50%到達迄に後少しと引き上げた。

詳しくは「総会議事録」をご参照下さい。

7年目に取り組む課題とは

会長 竹下靖彦



会員の皆さまお変わりございませんか？

先般開催致しました第7回通常総会では大変お世話になり、改めて御礼申し上げます。

いよいよ節目の設立10年目を目指して、新たな同窓会活動へと出発しました。

顧みますと、一般大学とは異なり個人学習を主体とし、各種サークルも極端に少なく、学生同士が交わる機会も少なく、従って連帯感も乏しい中で学部卒業、修士修了者を対象として組織する同窓会の存在価値をどのように浸透させるのか。その為の具体的な活動とは何かについて日々悩みながら、決して地理的条件が良くない地方都市において、同窓会活動を発展する鍵は何か等々、模索をしています。

会員の皆さまと役員が議論を行いながら、より高い峰を目指すために毎年思いを巡らしています。

社会貢献活動にも重点を置いて

設立6年を過ぎ、7年目を迎えるに際し毎年の課題は、先ずは会員の再登録を確実にし新たな入会者を迎えることです。ところが現実にはなかなか厳しい状況にあり、入学生が減少するに伴い、卒業生も減少することで入会者が少なくなって来ています。それは同窓会に対する必要性が感じられないことの現れであり、更なる活動の改善と在学生の要望を聞くとともに、支援を強めることにあります。

本年度は学習センター支援のみならず、社会貢献活動へ取り組みを強めると共に、新たに文化部を創設し対外活動にも積極的に参加することで、放送大学と島根同窓会の存在を広く宣伝する活動にも取り組みます。

ご支援・ご協力をよろしく申し上げます。

2ヶ月が過ぎて思うこと、 変わったこと

島根学習センター所長
田坂郁夫



佐々前所長の後任として、4月1日付で放送大学島根学習センター所長の職に就きました。

とはいっても、1日は月曜・閉所日なのでお休み。2日に千葉幕張の放送大学学園本部で辞令交付を受け、3日は移動日。島根学習センターでの仕事が始まったのは4日のことでした。3月に引き継ぎで何回かセンターを訪れ、事務長をはじめ職員の方ともお目にかかっていた筈ですが、皆さんに辞令をお渡しする際に改めてお顔を記憶にすり込んでいた次第です。

あれから2ヶ月が過ぎました。でも、年度でみれば6分の1が経過したばかりで、予定されている様々な行事・業務の一部を経験した段階です。辞令交付日を含め都合3回開かれた学習センター所長会議で、理事長や学長が話された放送大学・学習センターのあるべき姿や課題を考える時間は少ないですが、皆さんのお力も頂きながら取り組んでいきたいと思っています。

でも、この2ヶ月で大きく変わったこともあります。それは日々のウォーキングです。6年前に運動不足を痛感して始めたウォーキングにドブプリ填まり、全国各地で開催されている大会に参加してきました。

しかし、それらの大会は大抵土日開催されています。一方、学習センターは土日開かれ、ほぼ毎週のように面接授業が行われます。そして、面接授業の先生を紹介するのも所長の仕事の一つです。なので、当然ながらウォーキング大会には参加できません。それを補うということでもないですが、自宅からセンターまで片道4.5km、約50分の通勤ウォークを始めました。今年1年で何kmくらい歩くことになるのでしょうか。

島根同窓会の ますますの充実・発展を

前所長 佐々有生



平成30年度末で島根学習センター所長を退任しました。在任中は、島根同窓会の皆様にご多大なご理解・ご支援等を

いただき心より感謝いたします。所長としての5年間は、微力ながら「同窓会・学友会との連携による学習センター活動の充実と広がり」及び「西部・島嶼部・中山間地を中心にした公開講座の開催」を基軸に務めてきました。実際、公開講演会、市民公開講座、卒業研究発表会、地域会員・学生交流会、社会貢献活動、学位記授与式等の行事等々、様々な活動で島根同窓会の皆様のご理解・ご協力をいただきました。センター運営は、島根同窓会の皆様のご支援があったからこそと改めて思い起こしています。本当にお世話様になりました。

退任後は、4月早々から引っ越しの準備に追われました。とりあえず2週間余りの島根大学宿舎の退去延長をいただき、慌ただしく広島に居を移しました。そして、荷物の整理する間もなく、退職の節目としてオランダ、ベルギー、フランスへと2週間の旅に出ました。まず、オランダでは、ゴッホ生誕の地などを訪ね、続いてベルギーでは、ゴッホが絵を学んだアカデミーやルーベンスのアトリエを訪ねたり、最初の油絵とされる祭壇画「神秘の子羊の礼賛」を鑑賞したりしました。さらにフランスでは、藤田嗣治が建てた礼拝堂や黒田清輝が投宿したアトリエなど、日本人画家の足跡まで追うことができました。機会がありましたら、島根同窓会の皆様にも美術に親しんでいただければと思います。

早くも6月を迎えた今日、24年間の単身生活を理由に、未だ多くの文献・資料等の荷物整理ができず落ち着かない日々を過ごしています。

第7回通常総会を開催

～第4期役員改選で女性副会長復活～



第7回通常総会は2019年4月21日(日)15:10分より、島根学習センター4階第2講義室において、委任状を含め65人の会員が出席して開催した。

司会は役員最年少の板倉理事による開会の挨拶に続き、竹下会長の挨拶、来賓に田坂新所長による「前任者同様同窓会に対する支援を行うとともに、センターへの協力もお願いする」と挨拶を受けた。



議長に石川副会長を選任し、議事録署名人を指名して総会議事に移った。

第1号議案は2018年度事業報告、第2号議案の決算・監査報告の提案を賛成多数で承認した。続いて第3号議案の2019年度事業計画及び第4号議案の予算案については提案通りいずれも賛成多数にて承認された。

事業計画について、放送大学と同窓会についての存在を如何に多くの県民に認知されるために、民間の各種団体からの事業に対する組織的な共催及び後援依頼には、会則に基づく限りにおいて積極的に応えて、開催案内等のポスター、チラシなどに団体名を記載して多数の人に存在をアピールする活動が特に補強された。

第4期役員改選では、竹下副会長の退任に伴



い新副会長に佐藤理事の昇格、新理事に鳥取県西部地域で

の活動を強めるため米子市在住の長尾美和子さんを選任した。

その人の人格をレベルアップしたことだろう

と思います。

平成最後の学位記授与式も出席者全員が幸せになりました。(安部保江)



平成30年度 第2学期 学位記授与式をお祝いで



麗らかな今日3月30日(土)午前11時から島根学習センター「第1講義室」で、平成最後の学位記授与式が挙行されました。

卒業生19人うち修士修了者1人の晴れやかなお顔を拝見して、式場は幸せに満ち溢れておりました。

佐々センター長からお一人お一人の手に学位記が渡されるとその緊張感も伝わってきます。

センター長からの式辞があり、続いて来賓の前センター長足立悦男先生と同窓会の石川副会長の祝辞がありました。最後に卒業生を代表して三好史子さんの答辞、仕事を持ちながらの学びの日々は大変であるだけにその感激も一入であろうと思いました。

花束贈呈があり、記念写真を撮って授与式はみんなの温かさに包まれ、拍手で送り胸を熱くしました。そして次の会場は第2講義室での昼食会、お話をしながらの食事もお和やかに進みました。それぞれの方の学びの姿をお聞きしながら、今日の学位記のずっしりとした重みは、

2018年度第2学期 卒業を祝う会を開催

副会長 石川直樹



3月30日(土)、2018年度第2学期学位記授与式の後、12時から島根学習センター4階第2講義室にて、同窓会主催による食事会を兼ねた「卒業を祝う会」を開催しました。

今回の卒業生は12名が参加されました。はじめに竹下同窓会長からお祝いの挨拶があり、続いて佐々学習センター所長からは「多くの参加をいただいたこと、また新規の入学者も例年より多くなっているのこうして島根学習センターに広く集っていただき盛り上がっていただければ」との挨拶がありました。

また、学友会より学友会会員である卒業生に対し、八田学友会長のご家族の手作りの記念品が贈呈されました。

続いて卒業生と修了生よりこれまでの苦労話や感想、今後の抱負がそれぞれから述べられました。



「はじめて卒業をしたが、仕事をしながらの



勉強だった。さまざまな方々がおられてそれぞれ努力されていたことがよくわかりました。最後は論文を書いたが、先生の指導を受けていろんな見方があることがわかり、世界が広がり満足いく結果になったと思います。今後は仕事の関係もあり、しばらく間をおいてから再チャレンジしたいと思います。」「学歴コンプレックスがあり卒業をめざして始めたが、なんとかやり遂げられた。」

また、「放送大学のことを知らずに入ったが、数年前に商工会議所に用事があって迷って部屋に入ったらそれが放送大学の説明会だった。そのとき放送大学の目玉は何かと聞いたら、心理学といわれて、その場の勢いで受けますと言って入学した。放送大学でよかったことは勉強するというで自分の部屋にこもれて、自分の城が持てたのがよかったと思う。城を守るために次もやりたいと思います」など、ユニークなお話もあり、和やかな雰囲気の中で閉会しました。

第12回公開講座

『心はつながりを求めている』 ～電話の向こうから～



毎回の通常総会を記念して開催している公開講座は6回目を迎え、昨今のいじめ、不登校、引きこもりが社会的の問題となっている折、直接対面してのカウンセリングの前に、「いのち電話」に長く関わってこられた荒木伸子さん(前の

ちの電話事務局長・松江市民正児童委員協議会連合会副会長)をお招きして、孤独や迷いの中にある児童の懸命に生きようとする姿にどのように対応するかについて、現状について実践豊富な講師より具体的な示唆を受けました。

公開講座は4月21日(日)13:30~15:00まで通常総会に先立って開催した。



講師から講座に向けて参加者にメッセージとして、「電話から聞こえてくる声、顔も分からない、どこから掛けているかも分からない。1本の電話線をつながる声と声、それは人と人との出会い、一期一会の出会いである。その出会いは今、生きてここにいる私、分かってと伝えているかのようだ。

予期しない苦しみ、悲しみの中で喜びが見えなくなってしまう。孤独の中で、迷いの中で懸命に生きようとする姿がそこにある。人は人とのつながりを求めて生きている。その心にどれだけ寄り添っていけるのか? 自分に問いかけながらの日々である。」

私の相談活動の始まりは

人と分かり合える関係を求めて、カウンセリング体験学習の道に入り、民生委員として日々住民と対応していた祖父の姿が、原風景であり社会とのつながりの中で実践したいとの思いからである。

社会に出てから先ず幼稚園勤務で体験したことや相談活動に関わる中で、1人一人の深い心の陰に出会い日常では感じることのできない実情を垣間見たことにカルチャーショックを受けた。孤独の中で、迷いの中で懸命に生きようとする若年者も高齢者の姿に尊さを感じた。



私、生きてここに「いる」よと、その心は語りかけ、心理士有資格者へつながりを求めている。頑張れとは決して言わないで元気でねと終わる。

苦しみの中にいる人々の心の声の叫び

ぼく、生きていいですか。
 ぼく、何で生まれて来たか教えてください。苦しいです。
 わたし、子どもを叩きそうです。助けてください。もう子どもは要らん。
 ぼく、寂しいよ～。お母さん出て行った。
 と、苦しみを打ち明ける。

不登校の子どもの出会いと自立していく姿

いじめから逃避するため、教室に帰らないと主張する子どもに対しては、四字熟語の中から選ぶことを求めると、ぼくはいじめから「起死回生」するよと立ち上がることを告げる。初期の立ち上がりが必要であること。

弟につらく当たる親に本音を吐き出させた瞬間は、松江市に2カ所しかない青少年支援センターと低学年の青少年相談室で対応できる。

現代社会は病んでいる

自殺者、特に自死者は全国で2万人、島根県は114人、松江市30人(全国4番目)となっている。自死者は家族の中で1人となる辛さ、自分が死なざるを得なくなる辛さ。結果は二次被害が発生する。

・不登校・ひきこもり(若年・高齢者)・殺害事件、
 ・心の病気・貧困・格差など、
 ・虐待・DV・いじめ、
 ・人間関係の喪失、
 ・貧困、
 ・IT(スマー

トホン・携帯電話)等、日常的に発生している。

私たちはどんな助けができるのか？

- ・人間尊重の心(ポイント〈聞く→聴く〉)声を潜めている人に心を向ける今話題の8050問題→家族全体が引きこもりとなる。
- ・自分の価値観を横に置く〈答える→応える〉共感的理解である。

終りに

- ・今、心は何処に(動いている)ありますか(意識することの状態)自分を知ることは他者の心を知る(感じる)
- ・谷川俊太郎の詞「いる」肯定的(あたたかい)に声をつないでいくことが重要である。

学位記授与式を迎えた方より

手にした記念品は 重みがあった



米子市 選科履修生 木下知義



この3月、教養学部全6コースを修了し「放送大学名誉学生」の称号をいただいた。島根学習センター3人目とのこと。

学位記授与式において佐々所長の式辞の中で過分なご紹介を頂戴しました。「だんだん」や「島根同窓会ホームページ」でその模様を拝見

し、ご配慮に恐縮しました。

さて、2018年度放送大学学位記授与式は、3月23日東京渋谷・NHKホールで行われました。学長表彰・放送大学名誉学生は、最年長の熊井純子さん（埼玉学習センター、82歳、27年間での成果）が総勢64名を代表して登壇されました。

式典終了後、学長表彰伝達があり、岩永雅也副学長から表彰状と記念品が一人ひとりに声掛けしながら丁寧に手渡されました。記念品は、「学長表彰」と刻印され、まなび一のメダルがめ込まれています。それを手にしたとき、普段物事に淡白な私ですがさすがに重みを感じました。

全コース卒業をめざすきっかけとなったのは、10年前初めて学位記授与式に出席したときです。その時の石弘光元学長式辞で、「本年度も4名の方がグランドスラム（当時）達成、生涯学習を標榜する放送大学にふさわしい快挙であります」という旨のお話がありました。その2年後、2回目の卒業時に全コース終了の長期目標を建てました。取り柄のない私ながら幸い達成できたのは、あきらめずに愚直に続けてきたお蔭と思っています。

もちろん、長い間関わって下さった島根学習センターや島根同窓会の皆さんのお力添えがあったことです。そして、悪天時の米子駅までの送迎やパソコン環境の面倒見など、家族の協力、気遣いにも感謝しきりです。

放送大学を卒業して

学友会 会長 八田 定夫



この度、放送大学・教育と心理コースを無事卒業することができましたことは家族そしてみなさま方のお支えあってのことであり、大変感謝いたしております。

そもそも大学入学の希望動機は、特別支援学校の教員免許が必要だったからにほかなりません。定年退職後学校に通えない子供たちを対象

にした「フリースクール」を、平成22年4月開設しましたところ、2年目ごろから発達しょうがいの生徒たちが入学してきたからです。それまで指導には多少自信があったのですが、ある時自分の愚かさに気が付き、もう一度勉強しなそうと思いに達したわけです。

そこで放送大学へ入学しましたが、頭は学習についていけず四苦八苦の連続でした。一度はやめようかと思ったこともありましたが、先輩諸氏の苦勞話や支えもあって最初の試験を突破でき大きな自信につながり、なんとか「認定心理士」取得、卒業までこぎつけることができました。

その間いろいろな人と知り合いになり、他方面にわたり教をいただき成長することができました。皆さん方はさまざまな職歴をお持ちで、それぞれの人生を生きてこられたわけであり「人の生きざま」を垣間見ることができ大きな力をいただきました。

学友会長として活動へ

そして学友会会長として、みなさんとご一緒に楽しく活動ができましたことは特筆すべきことであります。これこそ学生の本分であり、放送大学卒になり同窓会のみなさんとの交流を一層深めていきたいと思っております。

なにしろ同窓会新入生ですので、これからもよろしく願いいたします。

達成感の薄い4冊目の学位記

松江市 竹下靖彦



この度「情報コース」の卒業要件である16単位が認定され、放送大学が発行した4冊目の学位記を受けたが、正直なところこれまでの卒業とは違い、達成感を実感することがなかった。

その理由は、あまりにも安易な卒業要件とされたため、達成感に浸ることもなく、再入学か

ら1年6カ月で16単位すべてを取得し、2学期は再び時間待ちで年末年始をのんびり過ごした。

カリキュラム改正前の卒業要件は「2年間で30単位」でしたので、それなりの集中と努力が求められ、学習意欲が増したので卒業した達成感を味わうことができた。

顧みると、2009年4月全科履修生として入学し、「人間と文化コース」を履修、4年後の2013年4月、「社会と産業コース」に再入学、2015年4月、「生活と福祉コース」に再入学、2019年4月、「情報コース」に再入学し、2019年4月、現在5回目の「自然と環境コース」を再入学し、残るのは「心理と教育コース」だけになった。

最初の「人間と文化コース」を卒業した学位記授与式での「答辞」で、体力的、財政的にも可能であれば6コースを踏破し、名誉学生（当時はグランドスラム）をと無謀に挑戦すると宣言したことで、以後の努力目標となった。

入学時の年齢からすると最短で12年を要するため、名誉学生取得には実に82歳まで健康を維持し、財政的にも保証しなくてはならず、挑戦意欲を担保する必要があるからである。

そこで高齢を迎えても踏破が可能となるため、放送大学と島根大学との単位互換制度を利用すれば面接授業として単位取得が可能なるためと、自コース履修中に卒業要件を達成し、次コースの単位を先取りして持ち上げることで卒業要件を満たせば、6コース踏破が実現し、初期の願望が達成されると私の計画があった。

単位の先取りを切り捨てに

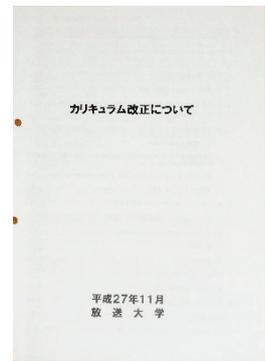
2015年11月突如として「カリキュラム改正のお知らせ」なる文書が届き、2016年度から教養学部のカリキュラム全体を見直し、多様な学生ニーズに対応する「新カリキュラム」による教育を開始するため、これまでの先取り単位と自コースへの持ち上げを廃止する、との通知を受け取り私の計画は、見事に潰えた。

納得できないため学園に対し「公文書の情報公開請求」を行った結果明らかとなったのは、実

に2012年5月9日に第1回カリキュラムWGを立ち上げ、以後延々と2016年9月まで検討されていたことが判明した。途中において学生に対してはまったく情報のアナウンスもなく検討されていたことが開示資料によって判明した次第。

「新カリキュラム」の卒業要件の大幅な変更は大学設置基準との整合性は如何なものか？

達成感の薄い学位記取得を目指す生涯学習とは、果たして何なのか自問自答の日々である。



連載シリーズ 第6回

“先輩同窓会員”を訪ねて



今回の訪問先は、島根県西部の日本海に面した江津市松川町市村に住まわれている山縣慶子さん（2012年3月卒業）をお訪ねしました。

山縣さんは同窓会設立間もなく入会され、同窓会発展に協力頂きました。取材には竹下会長と知野見広報部員がお邪魔しました。

広島で試験を終えて帰ったばかりという山縣さんは、白い夏帽子に白いブラウス姿で、自宅近くの待ち合わせ場所である茶房「蔵庭」に来られました。

紫陽花や季節の草木がいっぱい植え込まれた庭の、古民家を改装したという此処は、中国地方随一の江の川が近く、

時折夏鶯の声も聞こえて来る窓辺のテーブルに



向かい合い、早速お話をお伺いしました。

地元の郵便局でもリーフレットが存在



竹下 放送大学はどこで知られましたか？

山縣 東京の専門学校に行っていた時、郵便局に置いてあったリーフレットで知り興味をもちました。

そして島根に帰り江津の郵便局でもまたそれを目にしたからです。

竹下 放送大学への入学動機は何でしたか？

山縣 小さい時から心理学を学びたいという気持ちがあり、また大学も卒業したいということもあったからです。

私が生まれたのは浜田の国立病院でしたので、将来はそこで貢献できることをしたい、そこで働ける自分になりたいという思いがありました。そのために英語や心理学を学びたい、これは小学校の時から思っていました。

でも入学するかどうか迷いましたね。それは心理学の面接授業が少ないということを知ったからです。でも矢張り近く（松江の学習センター）で学んだが良いと判断してのことです。

これは弟から教えてもらったのですが、「志を持ってば気盛んなり」という言葉が、自分の励みと目標達成の原動力となりました。

竹下 そうですか。今は「心理と教育」というコース名になっています。山縣さんが「発達と教育」を専攻されたということは、以前から山縣さんが思っていたことを歩んでこられたということですね。素晴らしいことですね。だからそういったものが山縣さんを「学ぶこと」へ駆り立てたのですね。

叶いつつある夢に向かって

山縣 夢が全部叶いつつある、いや叶ったという思いですね。何となく時を過ごすという事が私は苦手なのですが、何か目的を持って努力す

ることを祖父母や両親から学びました。

祖父母や両親は読書が大好きでしたので、大学を卒業することが恩返しになると思っていましたので、これからもそうしていきたいと考えています。

竹下 そうですか、ところでご両親はご健在ですか？

山縣 私が専門学校を卒業するときには父は亡くなりました。母は健在です。夢は諦めたくないという思いがありましたので、バイトをしながら学びました。



竹下 放送大学で学ばれて良かったことはなんですか？

山縣 何度も同じ講義を見ることができる（インターネット講義のこと？）、好きな科目だけを選択できることで、実にムダが無いことなどですね。

竹下 放送大学で心理学を学んでいる人は沢山おられます。山縣さんの場合は学びを日常生活の中でも仕事の現場でもそれが活かされていますね。素晴らしいことです。学習センターから実に 100km 超も離れている西部地域ということで、学ぶことへの不便さ・距離的なこと等で思うところはありますか？

浜田で認定試験が受けられるとよい

山縣 平日で勉強するという点については、浜田市内の県立西部総合福祉センターいわみ〜る内に学ぶコーナーがあり、そこを利用できたので感謝をしています。しかし面接授業での心理学の講義が少ないですね。

竹下 心理学の受講生はどこでも多いので、近年は講義の回数も多くなっています。

知野見 面接授業や認定試験を受けるには、全て日帰りでしたか？

山縣 松江での講義や試験は全て一泊しました。

竹下 その点では大いなるハンディがありますね。せめて浜田市内で認定試験があれば、西部地域からの学生が増えると思います。

山縣 その通りですね。サテライトでなくても単位試験ができると思えますね。

竹下 今の後輩に伝えたいメッセージ等がありますか？

山縣 これは自分のこととしても思うことですが、今しかできないことに挑戦すること、そしてそれに取り組むことです。

竹下 同窓会報「たたら」に編集に望むことなどありましたらお聞かせください。

いつも“たたら”は楽しみです

山縣 同窓会報「たたら」は何時も楽しみにしています。ところで同窓会のHPを見ようとクリックしましたが、辿り着かずに見えない。

竹下 島根同窓会のHPはパスワード等無しで誰でも見えますので、是非また御覧になって下さい。HPは、パソコン教室を開いておられる会員の方からも「素晴らしいですね」とのお褒めの言葉などもいただき、更なる内容の充実にも努めています。特に連載記事の取り組みとして、原稿を待つだけでなく出かけて行って取材を行っています。

竹下 同窓会についてのご意見があったら聞かせてください。

山縣 会員同士の意見交換の場などは開いていますか？



竹下 地域別での意見交換会をしていますが、在学生と一緒にということで開催しています。昨年は多伎町の「櫻井家たたら遺跡」を見学し、交流も行いました。

竹下 放送大学島根学習センターに対する要望などはありますか？

山縣 今のところ特にありませんが、職場が浜田市内にありますので、西部地域に対する行事の企画に取り組んで欲しい。

竹下 矢張り学生から声をあげなければ大学もセンターも動きませんので、学生からの要望として発言して欲しいですね。



ところで、共に学んだ時の方で卒業後の消息を知りたい方はおられますか？

山縣 一緒に卒業した方ですと、米子の林千登勢さんはお元気でしょうか？スクールカウンセラーのようなことをなさっておられるみたいですが？(林千登勢さん、この記事をご覧になられていますか？山縣さんが懐かしんでおられました)。県外の方で岩島洋子さんです。NHKホールでの卒業式からホテルニューオータニの祝賀会まで一緒に行動をしましたので。

竹下 その方のご住所等が分かれば、島根同窓会から会報をお送りします。

竹下 勉強を続けていて落ち込むこともあると思いますが、気分転換などの方法は どうしておられますか？

山縣 読書とか買い物、ドライブなどですね。自分にご褒美をあげることによってモチベーションの維持もヤル気のバランスも取れます。読む本のジャンルは決まっていないのですが、人の心の動きとか、そういうものの勉強がしたいですね。旅行とかは、スクーリング(他の大学の通信生大学生)に行くのに出かける時、それが旅行でしょうかね。

自然に囲まれた環境、自然産物も豊富

竹下 お住まいされている江津の良いところとは何ですか？

山縣 自然に囲まれた環境で、地域の自然産物も豊富なこと、そして石見神楽とか中国地方最大の江の川でのレガッタなどが



あり、人口は少ないけど、緩やかな時間が流れて行き、仲のよい近所づきあいができることです。沢山の海水浴場やら、白イルカで有名な水族館アクアス・宮廷歌人柿本人麻呂とその石見妻衣羅良娘子(よさみ姫)ゆかり地などもあげたいですね。

竹下・知野見 本日はお疲れの中ありがとうございました。

取材を終えて



「心理学を学びたい・それを活かして貢献したい」という小学校の時代から夢をお持ちで、放送大学に入学した動機もそうであったからとか。そして話題は石見神楽や

ホーランエンヤのことなどにも及び、茶房の雰囲気と物静かに語られる山縣さんとの会話が静かに溶け込んで、予定の一時間をオーバーしての取材となりました。本当に貴重で楽しいひと時を頂きました。

会釈を交わしながら、茶房の前に停めた赤い車に山縣さんが乗り込まれ、緑に囲まれた山間の心に残る落ち着いた本日の取材を終えました。

山縣さんにはお忙しいところご協力をいただきましたこと、改めてお礼を申し上げます。

(知野見孝信)

地域の会員から No.4 (中部地域) ②

「いつまでも離れられないのよね、
放送大学は」

～JRの助けをいただいて～

出雲市 増原 久子

平成13年10月 放送大学入学(3年次編入)
平成17年9月 生活と福祉コース卒業
平成28年3月 人間と文化コース卒業
平成28年4月 大学院文化科学研究科修士
選科入学



当年とって84歳、平成13年に入学して以来、18年になります。

80歳を過ぎると、さすがに記憶力が減退していることを実感しています。物忘れもしばしばで、人の名前が思い出せません。物の名前も瞬間途絶えて、後に思い出して安心するといった具合です。年相応に呆けていると自覚はしながらも、大学院授業科目をパソコンからの配信で視聴しています。そしてだんだんセミナーの「英語小説を愉しむ」と、だんだんサロンの「作文の時間」に所属して、自分なりに頑張っています。その「作文の時間」では足立悦男先生のご指導で、手作りの作文集を完成させました。そのタイトルは「その自分史に悔いは無い」という放送大学イメージソング(小椋佳 作詞作曲)の1節をいただいたものです。

こうして放送大学を続けるためには、期末テストやセミナーへの出席のために、どうしても出雲市駅から松江駅までJRで通うことが必要です。ここ数年来足腰を痛めて困っていましたところ、最近になって駅員さんの介助が受けられることがわかり、車両の乗降口にスロープをかけていただいて、歩行器で乗り降りできるようになりました。更に時には大田から参加されるご夫妻にらせていただくこともあります。本当にありがたいことでたいへん感謝しています。

この後は自分の脳力と、自分の気力との勝負と言っていていいでしょう。まあ気負わずに、楽しんでやりましょうか。

大好き★出雲

出雲市 安食豊子



2009年3月に放送大学を卒業し、9年経ちました。同窓会会員になったものの、総会やイベントなど参加していない状況です。5月に“たたら”の原稿依頼がありました。せめて、その依頼には協力しなければ申し訳ないと思い、原稿に向かいました。

現在、私は出雲に住み、看護師として働いています。出雲は暮らしやすく、大好きです。私は、高校卒業後、関西の専門学校に行き、その後、大阪で就職しました。大阪で働いている時は、年に1~2回出雲に帰る程度でした。その度に、夜空の星、山の緑、青い海などを見て、ほっとする自分がいました。1995年3月に出雲に帰ってから24年、自然があり、食べ物も美味しく、温泉もあり、出雲は、落ち着くところです。幼馴染とは、「やっぱり、そばは出雲そばだよね〜!」と話しています。

今も賑わっている出雲大社

出雲大社は観光地。一時観光客も減少していましたが、60年に1度の遷宮で注目され、観光客も増えました。神門通りは、石畳で明るくなり、次々と新しい店もできました。今年の3月、大阪から友人が来た時には、出雲大社をゆっくり回り、看護の神様も参拝しました。まだまだ、観光客で賑わっています。活気があり、嬉しい気持ちになりました。この状態が続けば良いと願っています。

自分の年齢は、50歳を過ぎましたが、人生100年時代と言われる今、まだまだ人生の途中。大好きな出雲で元気に働き、学び続け、看護師としても人間としても成長し、人の役に立ち、安心感を与えることのできる人になりたいと思っています。

ホテルの舞う稗原から・・・

出雲市 後藤勝彦



いま、私の部屋の窓を開けるとホテルが飛び交っています。東京から、自然豊かな出雲市稗原町へ移り住んで20年。放送大学を卒業後、日本共産党の島根県委員長という重い責任を担うこととなり、この会報が届くころは超多忙な東奔西走の毎日を送っていることと思います。

もともと東京の大学で農学を専攻した私は、山と水と緑に囲まれた美しい自然のなかで暮らしたいという思いをずっと抱いていました。縁あって出雲の中山間地で暮らすようになってからは田植えをしたり、稲刈りをしたり、農学を学んだ一人として充実感を感じていたものです。

その一方で、日本共産党の役員として県内各地を回るなかで、さまざまな暮らしの切実な要望、生活相談などを受ける機会も多々ありました。小さいころから本が好きだった私は、いつしか大学で十分学べなかった社会科学の最新の到達を系統立てて学びたいと思うようになってきました。そんなことから放送大学で働きつつ学び、学びつつ働く日々を送ったのです。忙しい毎日のなかでも、学ぶ時間を持ち続け、幅広い知的刺激を得られたことが、いまの私の血肉になっていると感じます。

放送大学で身につけた知識を生かして

先日、この稗原の地で、私たちは「農業を考えるつどい」を開催しました。「草刈りが大変」「ブランド米に支援を」——JA支店長や認定農家の方、営農組合副組合長さんなど多彩な皆さんにパネラーを務めていただき、会場からもさまざま要望が次々に出されました。放送大学で身につけた知識を生かし、どう世の中と関わり、希望を持てる政治に変えていけるか——日々、このことを自問自答しつつ県内を駆け回っています。



会員リレートーク

No. 10

認知症も予防の時代に！

松江市 佐藤 玲子



この度認知症の予防を柱にした数値目標を、厚生労働省が初めて大綱に盛り込みました。

「認知症対策 予防を重視

70代、10年で1割減へ 数値

目標を『70代の発症を10年で1歳遅らせる』とした。実現すれば1割減少することになる（5月17日山陰中央新報より）。

自治体や大学等と連携して有効な施策を研究・模索していくようです。TVでは、運動や社会参加が予防につながる可能性があるとして、ある自治体の運動教室やサロン、学習講座などが放映されていました。

私は旧町で平成14年から認知症予防に取り組んできました。開始当初は社協の事業で実施し、80代90代になっても楽しみにして積極的に参加している人は、脳がとても元気でした。

その後、町で2教室を立ち上げました。教室では右脳を中心に前頭葉をフル活動させるようなプログラムを実施します。一教室3か月で、教室の前後に脳の元気度チェックをすると、85%以上の方が元気度を維持・改善し、本当の早期発見であれば回復します。しかも軽度認知症の方は脳機能低下の自覚があります！

この元気度チェックはエイジングライフ研究所の2段階方式で実施しました。唯一前頭葉の機能検査ができるのが魅力で、それができるから早期発見につながります（そのデータは「チョコちゃんに叱られる」に登場しました）。『アルツハイマー型認知症は、認知症の90%余りを占め、

生きがいや目標がない、趣味や交流がない、運動しない等ナイナイ尽くしの単調な生活習慣の継続で、前頭葉機能から低下して起こってくる』ことを同研究所はつきとめていて、『脳機能という物差し』を持って認知症を見ていきます。

前頭葉の働きは、脳全体の司令塔の役割です。前頭葉がその状況判断で、右脳・左脳を上手にその人らしく使いながら生きていくのです。「よく遊び、よく学べ」が右脳、左脳の説明なら、「十人十色」が前頭葉の説明に相当します。

また同研究所のマニュアルは住民主体の予防事業（サロン等）実施をうたっています。その方が、より予防と継続につながるからです。

できるのにしてこなかった認知症予防。私は認知症予防活動を微力ながらライフワークにしたいと思っています。

（下線部は同研究所ブログより引用）

※大綱[※]：この認知症施策推進大綱は、投稿後に数値目標を盛り込むことが見送られました。

2学期オープンキャンパス支援 in 松江会場

入学に向けた「説明会・相談会」

副会長 佐藤ひばり

(1) 放送大学の概要等について事務局から放送大学2019年10月入学に向けた「説明会・相談会」に同窓会会長から出席要請がありました。以下報告します。

1. 開催月日 令和元年6月30日(日)14:00～
2. 内容

(1) 放送大学の概要について

事務局から説明があった。

(2) 先輩から一言（同窓会）

私が放送大学に入学しようとした目的や思いなどを、入学を検討している方に、放送大学案内では記載できない単位取得方法（放送授業、オンライン授業、面接授業）の裏話なども含めてお話ししました。

私が学生の時には不明な点多々あったので、その都度事務局の方々に相談して明快な回答をいただいたことも併せてお話ししました。

私の社会貢献活動 ②

一地域に伝わる伝統文化 “神楽一

浜田市 琴野 正義



神々が集うとされる島根県に住んでおられる方は“神楽”という言葉をお聞きになったことがあると思います。その中で島根県西部石見地方の神社で奉納されるのが石見神楽です。

最近では各種イベントでも舞われています。そこでは悪を懲らしめる勸善懲悪の神楽が中心になっているようです。菅原道真を陥れた藤原時平を成敗する「天神」や老夫婦の娘を食べようとした大蛇を須佐之男命が退治する「八岐大蛇」などが代表的な演目です。

一方、秋祭りを中心に神社で舞われる奉納神楽において、神楽は本来の形を取り戻します。ここでは『神よ降りたまえ、神が降りておいでになる場所には綾を敷き、錦を並べて、そこを神の御座所とします。』という内容の歌を歌いながら四方を清める「塩祓い」や、まさに神を迎えようとして舞われる「神迎」などのいわゆる儀式舞が舞われます。勸善懲悪の舞の魅力は勿論ありますが、この神迎等の儀式舞も石見神楽の大きな魅力の一つです。私個人は、この儀式舞を舞った後は少しだけ神に近づくことができたような何とも言えぬ充実感を感じます。

石見神楽には、ほかに、領地をめぐって5人の神が合戦を行う「五神」や、神社の宝物の太鼓を祭礼のために据える際、なかなか神様の気に入るところに据えることができずに何度も据え替える「かっ鼓」などもあります

石見神楽の演目の中には古事記・日本書紀を原典とするものもあります。

古事記等と舞を関連付けて奉納神楽を鑑賞すると、勸善懲悪を超えた

神楽の奥深さを感じて頂くことができると思います。

浜田周辺では秋の週末の夜はどこかの神社で神楽が奉納されます。皆様も是非、翌日の朝方まで舞われる奉納神楽をお楽しみいただければ嬉しく思います。



私の書棚から

⑥

松江市 安部保江

◎本の題名

「こんな夜更けにバナナかよ」

一筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち

◎著者 渡辺一史

◎出版社 文芸春秋

この本は、ノンフィクションの筋ジストロフィー患者の鹿野さんと、ボランティアの人たちとの気の抜けない毎日の真剣な生きざまを著したものである。

この本をざっと斜め読みで、読んだことにすれば、何という我が儘な主人公だろうと思うかもしれない。しかし、それはほとんどもない浅い読み方でしかなかったと、気が付くはずである。主人公は、何回も自分が生きること絶望をし、また思いとどまり、自分がこのように生きることこそが、同じような立場で生きている人たちを、生きやすくすることに繋がるのだとの信念を持ち続けた。それゆえに彼は命懸けで生きたのである。

解説で山田太一氏も言っていたが、「患者とボランティア、よくあるやつね！」と内容の見当がついてしまうような気がする人がいると思うが、それは間違い。よくある本ではない。

人が人として生きることの可能性に思いがけない切り口で深入りしていく見事な本です」…と。映画化もされている。

中心とした、社会奉仕に多忙な日々を送っています。

最近には雲南市遺族会で戦後75年史編纂事業に取り組んでいます。これには島根大学法文学部板垣貴志准教授にご指導を頂き、情報交換もさせて頂いています。

私は大学、大学院で学んだことを住民の目線で地域住民と一体となって実践し、そこで現実と学問との調整を図り、生きた社会と融合することが大切と思っています。

雲南市遺族会では、第7回目の戦中の歴史・写真展を加茂文化ホールラメールで7月1日から5日まで開催しました。NHKの取材もあり県内外から研究熱心な見学者数百人が訪れられ大成功でありました。

310万人以上の戦死者を出したこのアジア、太平洋戦争の歴史的事実、そしてまだ海外に放置されている110万柱に及ぶ遺骨は海外の灼熱、シベリアの極寒風雪に埋まっています。

私たちは何もなかったように平和の中で暮らしています。それで良いのでしょうか。そして北朝鮮の拉致問題等など、私たちはまだ戦争は終わっていないと思います。

近年同窓会が積極的に社会貢献活動に取り組んでおられますが、会員1人一人が地域貢献に参加されている実態を把握され、会報に反映されることで取り組みが発展すると思いますので、投稿を期待します。

同窓会に参加されている皆さま方も、地域での社会貢献活動にそれぞれの分野でご活躍と存じます。お互いに暑さに向って元気で頑張りましょう。

同窓会に期待する ④



同窓会に期待する者

雲南市大東 難波幸夫



学んだことを地域社会に還元することが大切と思います。

平成28年3月、放送大学大学院を75歳で修了、修士の学位を取得しました。

卒業後は雲南市遺族会会長、大東明寿会及び大東老人クラブ連合会会長、松江木次線パイパス期成同盟会副会長、明寿会歌謡教室会長、ハーモニカ・グリーリバー代表等々ボランティアを



〈戦中の歴史・写真展風景〉

放送大学同窓会連合会

第22回通常総会模様

5月24日(土)、26日(日)の2日間にわたり、放送大学本部附属図書館において、放送大学同窓会連合会の第22回通常総会が開催されましたので、その模様を報告します。



<大学本部 図書館3F 大会議室>

第1部 通常総会

1日目は、最初に第1部として、総会(通常)が開催されました。全員で学歌を歌ったあと、佐兼連合会会長から、連合会も1990年(平成2年)に設立され、来年で30年となる会員数も12,500人となった。各同窓会においても新年度が始まり事業に取り組まれていることとします。検討会には大学から岡田副学長、池田副学長にも出席をいただく予定ですので活発な議論をお願いしたいとの挨拶があった。

続いて山梨同窓会の網倉会長を議長に選出した。第1号議案の2018年度活動報告から、第5号議案の2019年度役員改選(案)について、関係役員から報告と提案があった。主な質疑内容は以下のとおりである。第1号議案では、会議の開催報告、大学との連携・地区同窓会交流会の報告がされました。続いて2018年度卒業・終了祝賀パーティーは参加者総数745名との実施報告があった。ここでは、参加同窓会から「祝賀パーティーの挨拶が長い」との意見がでた。続いて同窓会報のホームページ掲載状況の報告があり、全51同窓会のうち36同窓会がホームページ掲載を実現できた。これにより同窓会連合会のホームページにおいてすべて閲覧可能となったこ

と、また今まで費用の観点で会報のカラー版ができない同窓会があったが電子化の推進により今後のカラー版の発行が可能となったと報告がありました。その他の活動報告及び2号議案については、異議なく承認された。

続いて3号議案の2019年度活動方針及び活動計画(案)、4号議案の予算案の審議に入り原案どおり承認された。5号議案の2019年度役員選任(案)の提案があり、原案どおり承認された。

第2部 検討会

第2部の検討会では、最初に岡田副学長より「放送大学新時代へ」との演題で講演があった。講演は、今日、学生の構成が変わってきたということで、次の三つのマスタープラン、①教養・教育の新時代、②教育方法の新時代、③学習センターの新時代、としての話がありました。続いて、地区交流会の活動報告が6地区の開催地の同窓会から報告がされ、岡田副学長、池田副学長から所感をいただいた。

岡田副学長からは、231chで同窓会のユニークな取り組みを紹介していきたい、また専門家を取り込むことが重要とのお話があった。池田副学長からは、①同窓会とセンターとコラボして偉人発掘を全国でやったら面白いのではないか。入学者向けのサポートやパソコン指導など、ボランティア活動を推進したらどうか。などの提言があった。

おもな、質疑として各同窓会からは、学習センターの人事異動に伴う引継ぎができていないことがあり、本部から指導をしてもらえないか。学



<総会参加者一同>

生勧誘にインセンティブを設けられれば同窓会ももっと貢献できるのではなどの意見がでた。

多くの同窓会から、報告シートや総会の議論の中で、共通の悩みとして、毎年のことであるが

役員の高齢化と後継者不足、②財政の問題、③同窓会の魅力や存在意義、④新規会員数の減少などがあげられた。詳細は各ブロックの報告シートを参照願いたい。(文責：石川)

～同窓会からのお知らせ～

新会員のご紹介



○2018年度2学期卒業

- ・心理と教育コース 米田祝子さん
- ・生活と福祉コース 友田里佳さん
- ・心理と教育コース 八田定夫さん
- ・心理と教育コース 北垣秀俊さん

◆同窓会の活動日誌◆

(2019年1月～6月)

1月度

- 8日(火) 会報“たたら”12号入稿
- 10日(木) 会報“たたら”12号校正
- 19日(土) 会報“たたら”12号発送
- 09日(木) 第10回英語塾開催
- 29日(火) 総会記念講演講師打合わせ

2月度

- 09日(土) 卒業研究発表会
- 10日(日) 1学期入学説明会(松江)
- 16日(土) 第3回(22)広報部会
- 16日(土) 第4回(31)役員会開催
- 17日(日) 市民活動センター団体登録
- 22日(金) 2学期学位記打合わせ
- 28日(木) 第11回英語塾開催

3月度

- 05日(火) 公開講座講師打合わせ
- 09日(土) 1学期入学説明会(松江)
- 09日(土) 1学期入学説明会(浜田)
- 15日(日) 第5回(32)役員会開催
- 15日(金) 佐々所長・山根主任送別会
- 25日(月) 第7回通常総会案内状発送
- 30日(日) 2学期学位記授与式
- 30日(日) 2学期卒業を祝う会開催
- 30日(日) 1学期入学者のつどい

4月度

- 13日(土) 会計監査
- 13日(土) 第6回(33)役員会
- 14日(日) 第4回東部地域イチゴ狩り
- 20日(土) 第7回通常総会資料印刷
- 21日(日) 第12回市民公開講演会開催
- 21日(日) 第7回通常総会開催

5月度

- 22日(木) 市民活動フェスタ実行委員会
- 25日(土) 第22回連合会総会
- 26日(日) 連合会全国交流会
- 30日(土) 第12回英語塾開催

6月度

- 01日(土) 第1回(34)役員会
- 14日(金) 市民活動フェスタ実行委
- 16日(日) 第2回支援協議会総会
- 27日(木) 第13回英語塾開催
- 30日(日) 2学期入学説明会(松江)

新役員のご紹介

新 副会長 佐藤 ひばりさん

(安来市)



第4期役員改選において副会長に選任されました佐藤ひばりです。

今まで竹下会長と役員の方々が共に築き上げてきた同窓会も今年で7年になります。

放送大学は放送メディアを主体としていますが、島根同窓会は顔の見えるお付き合いができ、会員の皆さまとコミュニケーションができることを嬉しく思います。

島根学習センターと協力しながら会員の皆さまと共に積極的に各事業に取り組み、地域に認識してもらうため社会貢献活動も行いたいと思います。

私は微力ではありますが、島根同窓会の発展のため一生懸命に頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



新理事

長尾 美和子さん

(米子市)

この度の通常総会に於いて理事に就任しました。よろしくお願ひします。

島根同窓会 第4期役員と担当部

- 会 長 竹下 靖彦 (再) 松江市
(担当: 事務局・広報・会計)
- 副会長 石川 直樹 (再) 松江市
(担当: 事務局・広報・東部)
- 同 佐藤ひばり (新) 安来市
(担当: 事務局・地域貢献部)
- 同 琴野 正義 (再) 浜田市
(担当: 西部地域担当)

退任役員の方挨拶

前 副会長 竹下 隆さん

(出雲市)



島根同総会設立前の準備段階から、関わらせて頂いた放送大学島根同窓会の理事・副会長を今総会に於いて退任させて頂きました。

同窓会では、地域貢献活動ならびに中部地区の交流活動等を主に担当させて頂き、皆様の協力によって、今後に繋がる活動が出来たと思います、今後は一層の充実と継続を願っています。

私は、4月から継続して県の嘱託職員として働くことになり、また、他の大学(法学部)に編入学も決まり、其方に時間を割いていくことになりました。

同窓会活動には今後とも一会員として参加させて頂きますので、宜しくお願ひ致します。

- 理 事 金田 文子 (再) 米子市
(担当: 文化部・鳥取西部)
- 同 長尾美和子 (新) 米子市
(担当: 地域貢献)
- 同 安部 保江 (再) 松江市
(担当: 広報部)
- 同 森脇エイ子 (再) 松江市
(担当: 会計)
- 同 川上 美里 (再) 松江市
(担当: 事務局・地域貢献)
- 同 小汀 政徳 (再) 出雲市
(担当: 広報・中部地域)
- 同 安井多喜恵 (再) 出雲市
(担当: 地域貢献・中部地域)
- 同 知野見孝信 (再) 大田市
(担当: 広報・中部地域)
- 同 板倉 直之 (再) 大田市
(担当: 西部地域)
- 監 事 宅和 由男 (再) 松江市
- 同 田中 秀典 (再) 松江市
(担当: 広報部)

文化部から観劇のお知らせ

いわさきちひろ生誕100年 前進座公演

新設された文化部の初仕事として、前進座ちひろ公演を観る会(同窓会も後援団体)が演劇鑑賞会に取り組みます。

このちひろ公演を観る会は、前進座の松江公演を成功させるための現地実行委員会で、30人の世話人(代表竹下会長)と松江市教育委員会・読売新聞社・山陰中央新報社・島根県生活協同組合・松江・出雲・米子市民劇場・島根同窓会など後援8団体で構成され、成功させるため取り組みを行っていますのでご協力をお願いします。

いわさきちひろさんは、日本を代表する画家で、たくさんの絵に日本中の人々が幾度も心を癒されました。

しかし、その生涯については皆が詳細に知るところではありません。戦争中、最初の結婚が悲しい結末を迎え、その後満州で



の悲惨な生活を送り、帰国後は空襲で傷つく多くの子供たちを目のあたりにして、ちひろは平和を願い子供たちの幸せを願いながら絵筆を握る生き方を見つけ出します。

今回チラシを同封しました。是非ご検討の上演劇鑑賞会にお出かけ下さい。

同窓会 当面の行事案内

社会貢献活動 市民活動フェスタ 2019 開催のご案内

日時 平成29年9月21日(土) 9:00~16:00 (参加団体: 島根同窓会)
会場 松江市 市民活動センター 「1階・2階・5階交流ホール」
内容 展示活動(学習センターと同窓会による放送大学の紹介と説明会)

2019年度第1学期卒業を祝う会開催のご案内

日時 2019年9月29日(日) 11:00~12:00 (主催: 学習センター)
会場 松江市 島根学習センター 3階 「第1講義室」
対象者 2019年度第1学期卒業要件を満たした学生
※後輩たちの卒業を祝福するため、会員多数のご参加をお願いします。

2019年度第1学期学位記授与式開催のご案内

日 時 2019年9月29日(日)11:00~12:00 (主催:学習センター)

会 場 松江市 島根学習センター 3階「第1講義室」

対象者 2019年度第1学期卒業要件を満たした学生

※後輩たちの卒業式を祝福するため、会員多数のご参加をお願いします。

文化部行事 前進座“ちひろ松江公演を観る会”観劇のご案内

日 時 2019年10月16日(水)14:00(開場13:30)/18:30(開場18:00)

会 場 松江市 島根県民会館中ホール

観劇料 大人5,000円 学生・障がい者3,000円【車いす利用者の補助者無料】

※観劇チケットは同窓会にて販売中(担当竹下:080-3056-0487)

地域貢献活動 さんいん環境キャンペーン森林保全活動(予定)

日 時 2019年11月9日(予定:土)9:30~12:00 (開会式と記念写真)

会 場 松江市東長江町(葉子山) (集合:朝日ヒルズ工業団地内臨時駐車場)

服 装 長靴又はトレッキングシューズ、長袖、長ズボン、軍手、帽子、タオル

※雨天の場合は中止(連絡します)し、改めて案内があります。

【拠点大学による地方創生推進事業(COC+)】オールしまねで若者定着や雇用の創出のために

しまね大交流会2019(初めて学習センター・同窓会で出展)

日 時 2019年11月16日(土)11:00~16:30

会 場 松江市くにびきメッセ「1階大展示場」

主 催 島根大学「しまね協働教育パートナーシップ推進協議会」

交流会 山陰・島根で活躍する企業・自治体・高等教育機関等がブース出展し、参加者と交流するワカモノのための県内最大級イベントで宣伝します。

～編集後記～

本号がお手元に届くころには、参議院選挙も終わり日本国民の基本的な人権が行使された結果が明らかになっています。それにしても今回の選挙は、政府を構成する政権与党が国民を下級国民と見下げた言動が各報道で明らかになった。年金・消費税・外交・雇用・教育など争点とする攻防がなされたが、大本は日本国憲法に由来し、憲法で規定する国民の在り様からすると、現憲法下でなせる業である。特に9条に自衛隊を明記すれば、軍隊を憲法で定めるため、軍隊を守るために戦前の日本国民が苦しんだ「軍法会議の設置」で、あの忌まわしい国民への統制がなされ暗黒社会となるのではないか。まさに民主主義の否定となる。果たして国民はそれを容認したのだろうか？(靖)